

# 日本幼児保育史 の研究



## 日本保育学会共同研究小委員会

### 十二、大阪市の初期の幼稚園（明治十六年）

大阪市には、府立模範幼稚園と愛珠幼稚園について、主として公立の多くの幼稚園ができた。つきにこれら大阪市の初期幼稚園の発展系路について述べよう。

府立模範幼稚園は、五月号で述べたように、府会の決議によって僅か四か年で、明治十六年に廢園されることになった。しかし廢園後、同園保護者たちの熱烈な要望と協力、ならびに府立模範幼稚園の保姆であった氏原銀姉妹の並々ならぬ献身的努力の結果、私立中州幼稚園として復活された。そして園舎も器具も保姆も旧府立模範幼稚園のものがそのまま継承されることになった。

私立中州幼稚園の設立事情については、「日本幼稚園史」一四〇頁の氏原銀の手記からうかがい知ることが出来るが、京阪神保育会雑誌第一号（明治三十一年七

月発行）では、つぎのように述べている。

（府立模範幼稚園ハ）漸ク進歩ノ状ヲ呈セシモ明治十六年六月ニ至リ俄ニ之レヲ廢セラレタリ。茲ニ於テ府下幼稚園ハ東区愛珠幼稚園ノ一トナリタレハ從前府立模範幼稚園ニ保育ヲ受ケツツ在リシ幼児ハ愛珠幼稚園ニ入ラントスルモ該園ニ定員アレハ悉ク希望

〔表〕 大阪市における初期幼稚園

区	名称	所在地	創立年月	園長氏名	首席保姆氏名	備考
東	江戸幼稚園	江戸堀南通二丁目	明二六・四	牧野 順学	山口 マサ	
江	江戸堀南通二丁目	明二六・四	岡本 真澄	西山 タケ	旧西区幼稚園 明一七・七創設	
堀	阿波座下通同中	明二六・四	佐治 春彦	土井 コウ		
明	二丁目	明二一・八	戸川新太郎	岡本 マサ		
弘	薩摩堀北之町	明二一・六	神阪 兼造	柴山 タカ		
西	新町南通二丁目	明二五・七	村上 養吉	志方 フサ		
堀	北堀江下通四丁目	明二三・一〇	羽田富太郎	井門 トミ		
高	南堀江下通二丁目	明一九・五	神戸 禎吉	松枝 タネ	高台小付属保育科として創設	
日	南堀江上通五丁目	明二一・九	西川 重也	招村 アイ		
松	花園町	明二五・四	山口八三郎	田村スグレ		

ヲ満タス能ハス多数ノ幼児ハ保育ヲ受クルノ途ナキニ至レリ茲ニ於テ幼児保護者中島田寛人、山口幸七、丸井佐助、猪飼史郎、樋口重郎兵衛、松下淳道、藤井秀齊ノ七氏私立幼稚園ヲ設立セントシ各自多数ノ金員ヲ投シ旧府立模範幼稚園ノ器具ノ入札払トナルニ際シ其幾部ノ払下ヲ得テ協力熱心ノ結果明治十六年十月開園式ヲ挙クルニ至リ私立中州幼稚園ト称ス其場所ハ旧府立幼稚園ノ跡ヲ借用シ保母モ亦旧府立幼稚園ニ在勤セシモノヲ以テ開業セリ幼児ノ幸福美ニ大ナリト云フヘシ

(六三頁—六四頁)

この中州幼稚園の保母が氏原銀とその妹、膳タケの二人で、まさに減びようとした府立模範幼稚園の伝統をあくまで存続発展させるために並々ならぬ苦勞をしてゐる。「日本幼稚園史」の氏原の手記によれば、

実に亡びんとする府立園の命脈を継続して再興し得たる満足は例ふるに物なく、再生の思いをなしたり。此園幼児五十名保育料三十錢此収入十五円を以て園を維持する事として、使丁給料と雜費を支出すれば殘金は僅となりて、事務員の須川氏はじめ自分等姉妹の給料は殆んど無給同様なりしも園の再挙を喜び献身的に愉快に従事す。今日これを思い今昔の感に堪えず(一四〇頁)

と述懐している。  
危胎に瀕した愛する幼稚園を救い、愛する幼児教育

	北 区	東 区	南 区	本 田 幼 稚 園
合 計	相生幼稚園 岩井 菅川 堀川 西天満 中之島 安治川	浪華 久宝 船場 愛珠	桃園 金甌 芦池 御津 道仁 相生 難波	本田二番丁
三七園	相生町 空心町二丁目 河内町一丁目 北花町二丁目 東堀川町 木幡町 堂島浜通二丁目 中之島四丁目 安治川通南二丁目	淡路町二丁目 南久太郎町一丁目 久宝寺町三丁目 安土町三丁目 今橋三丁目	東新瓦屋町 瓦屋町三番町 安堂寺橋通三丁目 西清水町 大宝寺町 南堀屋町 難波新地四番丁 難波字難波	明二〇・七
	明二〇・三 明一七・一 明一七・一 明一七・一 明一七・一 明一七・一 明一七・一 明一七・一 明一七・一 明一七・一	明一九・七 明一九・九 明二一・四 明二一・四 明二一・四 明二一・四 明二一・四 明二一・四 明二一・四 明二一・四	明二二・五 明一九・一 明一九・一 明一九・一 明一九・一 明一九・一 明一九・一 明一九・一 明一九・一 明一九・一	栗原 潔景
	小原園太郎 高橋 直保 志賀 裕瑞 中島 捨之 常光 定吾 羽原 猛郎 京極昇三郎 泉屋 龜藏	中井 一馬 松本 朝吉 門田 利助 土生 俊純 塩野吉兵衛	吉田一太郎 福井 時治 泉原 準造 美濃幸太郎 大槻 永三 青木麻治郎 姫岡 豊吉	松島 シゲ
	播磨 タマ 白石 カズ 江村 ウタ 永田 アイ 木村 リウ 氏原 鏡	片岡 春 多計 高島 カウ 浅野 ミツ 伏見 柳	仲村 米 八田 サダ 井村 スエ 滋賀 アイ 日置 フミ 柴田 フミ 長光 カネ	松島 シゲ
	旧北区幼稚園(明一七・七創設)	浪華小付設幼児保育科として 博勞小学校付設百濟幼稚園とし 開設旧中船場幼稚園(明一九・三 ・改称)	旧南区幼稚園(明一八・頃創設)	

の発展のためには給料をも投げうって献身したこの努力と気魄があったればこそ、府立模範幼稚園の伝統が存続され幼児教育の重要性が市当局者の認めるところとなり、やがて大阪市に他府県ではみられぬほどの公立幼稚園が發展していく素因を形成したのだと思われる。

この私立中州幼稚園は一か年たたないうちに北区の公立モデル幼稚園として新発足することとなった。また西区には同園の保母膳タケをもって新しく公立西区幼稚園が設立された。

京阪神保育会雑誌第一号によれば

斯クテ翌十七年ニ至リ文部省ヨリ幼稚園ニ関スル訓令出テ教育社会ニ幼稚園ノ必要ヲ感セシムルニ至リ西区并ニ北区ノ当局者モ幼稚園ヲ設立セントシ中州幼稚園ニ向テ其保母并ニ器具トモニ譲リ受ケンコトヲ申込メリ然ルニ西区ハ終ニ此議ヲ北区ニ譲リ唯保母ノ中一名ヲ請ヒテ別ニ開園スルコト、ナリタレハ北区ハ直チニ区費ヲ以テこの園ヲ譲リ受ケ十七年七月同所ニ於テ開園式ヲ挙ケ公立北区幼稚園ト称シ翌年同区若松町ニ園舎ヲ新築シテ移転セリ西区モ江戸堀南通ニ完全ナル園舎ヲ新築シテ開園スルニ至レリ 是ニ於テ大阪市ハ東、北、西ノ三区ニ各一園ヲ有スルニ至レリ当時尚他ニ幼稚園ノ設立ヲ希望スルモノ有ルモ保母ヲ得ルコト難キニ由リ西、北ノ両区ハ先ツ区内ニ模範トスルニ足ルヘキ一園ヲ設立シ見習生ヲ養成シテ此卒業生ニヨリ区内各所ニ幼稚園ヲ設置シ保育法ヲ普及セシメントノ趣旨ニテ前記ノ如ク各区一園ツ、ヲ設立セラレタルナリ而シテ此兩園トモ明治二十六年三月限りニテ之ヲ廢シ西区ハ江戸堀幼稚園ト改称シテ現今ノ所ニ移リ北区ハ西天満幼稚園ト改称シテ今ノ所ニ移

転セリ」(六四頁)

と述べられている。

この文章からも分るように当時大阪では人びとの幼稚園にたいする要望は高く、幼稚園の先生を得られないというところに難点があったようである。そしてこの北区幼稚園(主席保母氏原銀)と西区幼稚園(首席保母膳タケ)が養成した保母見習生の数は相当多かったもののように、同雑誌第一号の記事によると、

両園見習生ノ出テテ大阪市ニ公立幼稚園ヲ開園スルモノ二十二  
今尚存在シテ益々盛ナリ依テ現今全市幼稚園数三十八ノ過半ヲ  
占ルモノハ旧模範幼稚園ノ系統ヨリ出テシモノニ外ナラサルナ  
リ(六三頁)

とある。

両園の見習卒業生が開設した二十二園の名称は正確には判明しないが、保母養成を積極的に遂行した愛珠幼稚園などを持つ東区以外の幼稚園で、明治十七年以降二十六年までに新設されたものほとんどすべてが氏原銀姉妹の薫陶をうけた保母をもって開園されたのだといつてよいであろう。しかもまた愛珠幼稚園は旧府立模範幼稚園で氏原銀の指導を受けた同園の保母見習生三名をもって開園されたことを考えると、大阪市の公立幼稚園は皆府立模範幼稚園の系統をひくものだとすることができよう。

北区、西区両園が廃止された明治二十六年までが大阪市幼稚園の創設期ともいふべきものであり、市当局が設置すべく考えた当時の三十九学区の大半に公立の幼稚園が開設された。

そこで、明治三十一年四月の京阪神三市連合保育会開設の際に大阪市保育会が調査し、同会の保育品展覧会に出品された「大阪市幼

稚園一覽表」にもとづいて当時の大阪市幼稚園創設年月、および園長、主席保母名の一覽を66、67頁下段にかけておいた。そこにかかげた幼稚園はすべて公立幼稚園であり、園長は皆各学区小学校校長が兼務していた。

なお、私立幼稚園は当時皆無に等しかった。私立幼稚園としては明治十六年に造幣局のなかに設立された幼稚園のほか、もう一園當時設立されたものがあるようであるが名称その他は不明である。大阪市における私立幼稚園の發達は、明治四十年以後からであるといえる。

(水野)

### 十三、江東女子小学校付属幼稚園 (明治十四年)

愛珠幼稚園が大阪の地でその歩を進めていた頃、東京でも、

「法令未滿ノ幼稚ヲシテ天賦ノ知学ヲ啓発シ善良ノ慣習ヲ得セ

シムル」(註三)

ことを目的として、公私おのおの一園が開設された。

そのうち公立の幼稚園は本所区に小学校の付属としてつくられたもので、「本所区公立江東女子小学校付属幼稚園」である。

この幼稚園は十月十六日に創立されているが、詳しいことは分らず、「東京府年報」にその記録がみえるだけである。これによると、

其方法細目ハ実施の上更ニ確定スヘキコト、為シ現今ハ単ニ東京女子師範学校付属幼稚園ノ規定ニ模倣シ保育法ハ脩身語、庶物語、玩器用法、読方、書、画、唱歌、遊嬉ノ八課トス

とあるから、女子師範学校付属幼稚園を、まねたものと思われる。

ただここで、「其方法細目ハ実施ノ上更ニ確定スヘキコト、為シ」とあるところを見ると、付属幼稚園のやりかたに満足してそのまま模倣しようとしたわけではなかったようである。

当初この幼稚園には、保母一名にたいして十三名の幼児が集っているが、ほとんど男児(十一名)である。なお翌十五年になると、幼児は二十七名に増加しており發展のあとがみられる。すなわち文部省年報に、

両園設置ノ目的及保育法ハ前年々報ニ述ベタル如シ、但幼児ハ公立二十七名私立二十一名ノ増加アリ共ニ稍進歩ノ状況ヲ呈セシモノノ如シ (明治十五年文部省年報)

と述べられている。

### 十四、桜井学校付属幼稚園 (明治十三年)

桜井学校付属幼稚園は、東京における私立の最初の幼稚園であるとともに、また、キリスト教主義による最初の幼稚園でもある。

この幼稚園は、明治十三年四月一日に、麩町区中六番地の桜井学校の中に桜井チカによつて設置された。この桜井学校というのは、桜井チカが、明治九年にキリスト教による女子の教育を志して創めたものであるが、外人宣教師の手をかりずに(註三)、日本のクリスチヤンにより創められた女学校のうち最初のものであった。

そして、この幼稚園は桜井学校の変遷(註四)とともに歩み、日清戦争の終つた頃(一八九五年)まで続いたということである。

桜井学校ならびに幼稚園の創設については、「女子学院五十年史」ならびに「女子学院八十年史」のなかに、つぎのように紹介さ

れている。

桜井女史が始め五円を投じて一軒の家を借り受け、少数の生徒を集めて女子教育の端緒を開かれたのが、即ち桜井女学校の基礎となったのである。其後その狭き家を去り東郷坂に手頃な家を借り受け、艱難・辛苦と戦ひ、女子教育のみならず、師範学校付属幼稚園保姆科第一回の卒業生を雇ひ、東京市に於ける最初の幼稚園を開き、その上貧民の爲めの学校迄設立せられた。

(八十年史四十二頁)

右の文中、「師範学校付属幼稚園保姆科第一回の卒業生」とあるのは、女子師範学校の小学師範科（保姆科は誤り。女子師範学校では十二年より、小学師範科とし、この卒業生には、同時に保姆の資格を与えようとした）を卒業した馬屋原ツルのことである。馬屋原ツルは、明治十三年二月に卒業し、すぐに桜井学校付属幼稚園の保姆になった。

ところで、どうして桜井チカが幼稚園を設置したかについては、資料がない（註三）ので、よくはわからない。しかし、桜井は、本誌4月号で述べた横浜の「亜米利加婦人教授所」の後身である共立女学校の出身であったということと、その夫君桜井昭恵（註四）が伝道者であったこと、したがって外国の婦人宣教師との交わりを通して幼児教育にたいする知識や関心を十分持っていたのではないかというところが推測される。

ここで、当初の幼稚園の様子を文部省年報によってみると、

保育法ハ、物品科、美麗科、知識科及び五十音、計數、唱歌、單語図、説話、体操ナリ（東京府年報第九年報）

とあり、また

保姆一名幼児十名内男四名、女六名ニシテ前年ノ実況ト大異ナキニ以タリ（同）  
とあり、更に明治十五年のには  
……私立二十一名ノ増加アリ……稍進歩ノ状況ヲ呈セシモノノ

如シ

と記されている。

さて、幼稚園が誕生したその同じ年、明治十三年の八月、桜井チカは夫君の伝道の地、北海道へ行かざるを得なくなり、ミセス・ツルーに託して東京を去ることになった。時あたかも、学校は経営難におちいり、桜井学校は米国長老教会フィラデルヒア婦人伝道局の配下に移った。そして麴町中六番町二十八番地に、四千円を投じて新校舎を建てて移転した。

当時、外国人は居留地でなければ財産を持つことができなかつたから、実際はミセス・ツルーが校長であったが、表向きでは矢島樺子が校長となり、校門の標札も、矢島樺子の名が出ていたといわれる。こうした事情は、キリスト教幼稚園の開設当時にあつては、しばしばみられたところである。

こうして、新しい組織にひきつがれた桜井女学校は、分校の開設、さらに明治二十年の看護婦学校の創立（註五）と、幅ひろく女子教育を展開していった。幼稚園に関してこの辺の事情を「女子学院八十年史」には、つぎのように記している。

明治十六年（註六）幼稚園を拡張せんとして、三番町（註九）五十二番に分校を開き、米国より此の道に堪能なるミス・ミリケンを招きその任にあたらしめた。（四三頁）

明治十七年に渡来したミス・ミリケン(註一)は、宣教師であり、同時に幼稚園保姆の資格を持った人であった。真赤なチョッキを着て、少女あがりの時代に着任し、四十年間にわたって、桜井学校の教鞭をとりながら、幼稚園の仕事をおこなったようである。とくに、ここでは、ミリケンを教師として「幼稚保育科」を設けたが、当時わが国における幼児教育の唯一の専門家であるというわけで、女子師範学校の教師もしばしば聴講に来たということである。後に金沢の英和幼稚園ができたとき、ポートルを助けて最初の保姆となつた吉田(春日)ゑつは、この幼稚保育科の第一回の卒業生であつた。

この幼稚園の詳細を知らせる当時の資料は残っていない(註五参照)。しかし、ガントレット恒子(註十二)の、「女子学院八十年史」に揚げられた、「学校生活(七十七年の想い出)」のなかには、当時を想像できる興味ある記事が載っている。

ミス・ミリケンが来朝して新しく園長となるまでは師範学校の幼稚園の先生が来て教へたことも憶えてゐる。フレーベル式の恩物を用いた。また唱歌が頗るふるつてゐた。

うた舞に、立ちつどひたる、たはむれのゝめしひの君よ、友とちよ、歌ふまにく、そが中の、一人の君を、耳とくも、それときゝ知り、心あての、その名たがへず、さゝは指きなん

それから餅搗の歌

洗ひ水、ひいて粉にしつ、湯にかけて、つきにつきぬく、だんごの粉、ベツタン、ベツタン

楽器がなくて笏で拍子をとってシナの節で歌ふのであるが、今日のことを考へるとまるで異国のやうな感じがする。

(同八二頁)

また明治二十八年十月に尋常三年で女子学院に入学した 里見しづ(石本)(明治40年卒)は、当時をつぎのように語っている。

明治廿八年十二月尋常三年で女子学院に入学した時、幼稚園、予科、中学、高等部があつた。山崎蓉花さん——山下新太郎画伯夫人——岩本清子——明治女学校々長善治郎氏長女——等が幼稚園の生徒であつた。桜井部(註十三)のシティングルームが幼稚園の教室で、朝の礼拝は、小学部と幼稚園が一緒に其処で行なわれた。

幼稚園はミス・エタが指導して、掛図をかけ、絵を見せ、英語の単語を教えられた。歌は直訳で「ウマキミカンヲ 買ウ人ハ誰 ウマキミカンヲ、我ユキテ買ワン」。「青キ生垣ニ菓ツクル親鳥マガラナル卵ニツヲ生ミテ羽ニアタタム。」垣根の傍で鶯花さん達が、赤い洋服の可愛い姿でその遊戯をする愛らしさは今も眼に残っています。(同二二二—二二三頁) (赤池)

(註一) 大阪市における初期幼稚園発生の系譜については日本保育学会第十三回大会共同研究に発表「幼児の教育」第五十九巻第九号五十七頁—五十九頁参照

(註二) 東京府年報第九年報六〇頁

(註三) 当時の女子の学校は横浜の共立女学校、フェリス女学校等外国のキリスト教宣教師により創められている。それが明治九年にはじめて日本のクリスチャンの手により、原女学校(銀座三十間堀岸通りに原胤照によりはじめられ明治十三年財政難のため廃校)と桜井女学校が設立された。

(註四) 経営が米国長老教会フィラデルヒア婦人伝道局に

移った。また明治二十二年九月には、中六番町を去り築地の新栄女学校とともに上二番町に移転、合併して

現在の女子学院となっている。(左図参照)

(註五) 女子学院は、明治三十年代に二回の火災、および

第二次大戦の空襲をうけたので当時の記録は悉く消失現在この幼稚園に関しては「女子学院五十年史」および

A六番女学校  
明治三十九年  
明治三十九年  
本國長老教会婦人伝道局派遣のカルメル夫人の経営  
米國長老教会ニューヨーク婦人伝道局派遣  
のミス・パークとミス・ヨンゲンが経営

原女学校  
明治九年  
明治九年  
銀座三十四番地通り  
原明がA六番  
の廃校をまいて設立

B六番女学校  
明治六十九年  
明治六十九年  
米國長老教会ニューヨーク婦人伝道局派遣  
のミス・パークとミス・ヨンゲンが経営

新栄女学校  
明治九十二年  
明治九十二年  
築地新栄町二十二番地  
B六番女学校がクラハム女学校と名を改め、更に  
その年に新栄女学校と改称

女子学院

桜井学校  
明治九十二年九月

である。

(註八) 明治十六年であるのか、十七年であるのか定かでない。

(註九) 中六番町の誤りか。

(註十) 一八六〇年十二月十一日フロリダ州に生まれた。

一八八四年に二十代の若きをもって来日。一九二四年まで宣教師として、また幼稚園の園長として更に女子学院に教鞭をとった。一九五二年(昭和二十六年)二月三日、九十一

歳の高齢にて没す。

(註十一) 山田耕作の妹。山口県萩の秋芳洞を初めて探検したガントレット

の妻となった。  
ガントレット恒子は、桜井女学校の経営が米国長老教会フィラデルヒ

ア婦人伝道局にひきつがれる前、六歳の時から入学し、明治二十三年に女子学院を卒業し、卒業後、この幼稚園すなわち桜井学校付属幼稚園(女子学院になってから何と称したか不明)の保姆をしていた人である。

昭和三十四年歿。非常に記憶力のすぐれた人であったといふことをきいている。

(註十二) 註四にみる如く新栄女学校と桜井学校が合併して女子学院となった時、当時米国の女学校に流行していたカデジ・システムをまねて、二つの校舎を建て

「グラハムホール」と「桜井ホーム」とした。そして

桜井学校の生徒を「桜井ホーム」に收容したから「桜井部」と呼んだものと思われる。

(註七) ミセス・ツルが、バラ夫人の志を継いだもよう

(註六) 「女二代の記」(山川菊栄著日本評論新社)25頁

にほんの少し記されているが、それによれば、退職軍人であったとある。

### 幼児の教育 第六卷 第十号

十月号 © 定価 六十円

昭和三十六年九月二十五日印刷

昭和三十六年十月 一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三〇一

発売所 株式会社フレールベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌ご購入についてのご注文は発売所フレールベル館にお願いいたします。